

大会規則及び競技者注意事項

本大会は2019年（公財）日本陸上競技連盟規則並びに本大会要項及び申し合わせ事項によって行う。

1. 開門および練習について

月日	開門時間	メイン競技場		補助競技場
7月19日（金）	10:00	10:00～15:00	競技終了後～18:00	10:00～17:30
7月20日（土）	7:00	7:00～ 8:15	競技終了後～18:00	7:00～17:00
7月21日（日）	7:00	7:00～ 8:30		7:00～15:00

※補助競技場での棒高跳と砲丸投の練習はできない。ただし、メイン競技場での練習は許可するが、必ず顧問が責任を持ってつくこと。

※本競技場での練習レーンは以下のようにする。

ホームストレート側		バックストレート側	
1・2レーン	周回レーン	1・2レーン	周回レーン
3・4レーン	流し・ダッシュ	3～9レーン	流し・ダッシュ・リレー
5～7レーン	スタートダッシュ		
8レーン	女子ハードル		
9レーン	男子ハードル		

2. 招集について

- (1) 招集所は、100mスタート地点の競技場外に設ける。
- (2) 招集は、競技開始時刻40分前から行い、トラック競技は15分前、フィールド競技（四種競技を含む）は30分前に完了する。（但し、棒高跳は60分前から行い50分前に完了し、場内で練習させる。砲丸投も時間までは場内で練習させる。）
- (3) 競技者は、当該種目の招集時刻がきたら、招集所に用意された競技者一覧表に、競技者または代理人が自分のナンバーを○で囲む。招集完了時刻5分前までをこれにあてる。
- (4) 競技者は、招集終了5分前に招集所に集合し、最終点呼を受ける。その際、競技者係にユニフォームのナンバーを見せ、確認を受け、スパイク、リレーのユニフォーム、クツ底及びバッグなどの商標の確認を受けた後、係員の誘導で競技場に入る。代理人による最終点呼は認めない。
- (5) 2種目を同時に兼ねて出場する競技者は、招集開始時刻までに「2種目同時出場届」を競技者係に提出すること。この場合、招集時刻が後の種目の招集は行ったものとみなし、選手は直接現地で最終確認を受けること。審判長がやむを得ないと判断した場合に限り、フィールド競技については試技順を変更して出場させることもある。
- (6) 招集時刻に遅れた競技者は、当該種目を棄権したものとみなして処理する。
- (7) 四種競技の招集は、すべての種目を招集所で行う。ただし、2種目目以降で招集完了時刻までに前の競技が終了しなかった場合は、前の競技終了後すぐ招集所に集合する。控室は設けない。
- (8) 競技者の棄権については、大会の権威と運営を円滑に期するために極力避けること。やむを得ず棄権するときは、招集開始時刻までに競技者もしくは競技者の所属する学校の関係者がその旨を競技者係に申し出る。

3. 競技場への入退場

- (1) 入退場は競技役員の指示にしたがって整然と行う。
- (2) 競技を行う競技者以外は、トラック・フィールド内に立ち入ってはならない。注意に従わない場合は当該競技者の競技を認めない場合がある。

4. 競技運営について

- (1) セパレートレーンで行う競技では、決勝線通過後も自分のレーン（曲走路）を走り、他走者の妨害をしないこと。
- (2) 競技規則第144条（競技者に対する助力）について特に注意すること。
- (3) 本競技場は全天候舗装であるので、スパイクシューズのピンの長さは9mm以下の全天候型のピンとし、走高跳と棒高跳は12mm以下の全天候型ピンとする。
- (4) トラック競技の決勝は、主催者側で公平に組み合わせの上抽選し、走路順を掲示によって知らせる。着順は1/1000秒で判定し、同タイムの者が多くレーンが不足する場合には、抽選にて決定する。抽選に来ない場合は、次のラウンドへの進出を放棄したものとみなす。
- (5) リレーメンバーオーダー用紙は、当該競技の招集開始時刻60分前（競技開始1時間40分前）までに、所定の用紙に記入の上、競技者係に2部提出すること。決勝においても、変更の有無にかかわらず、その都度招集開始時刻60分までに競技者係に2部提出すること。リレーメンバーオーダー用紙は、選手招集所に用意しておく。
- (6) リレー競技においては、その学校の同一のユニフォームを着用する。ただし、デザインが同一であれば、ランパン・スパッツの区別はしない。

- (7) フィールド競技出場者で、その競技中に他の競技にも出場している場合、選手がそのラウンド終了までに試技できなかった場合は、そのラウンドは無効とする。
- (8) 全学年男子3000mは安全上2段スタートにすることがある。
- (9) 四種競技の最終種目における組み合わせは、それまでの得点の多い競技者で、1つの組をつくる。
- (10) 走高跳と棒高跳について、3位が複数の場合には、中国大会選手選考のためにジャンプオフを実施する場合がある。
- (11) 走幅跳はAピット、Bピットの2ピットを同時展開で競技を行う場合がある。

5. バーの上げ方について

走高跳及び棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

- 走高跳 男子（練習1m45）－50－55－60－65－70（以後3cmずつ上げる）
女子（練習1m20）－25－30－35－40－45（以後3cmずつ上げる）
- 棒高跳 （練習2m40、3m00、3m50）－2m40－60－80－3m00（以後10cmずつ上げる）
- 四種走高跳 男子（練習1m25）－30－35－40－45－50－55（以後3cmずつ上げる）
女子（練習1m05）－10－15－20－25－30（以後3cmずつ上げる）

※特殊条件によって変更する場合のバーの上げ方は審判長が決める。

※順位決定のためにジャンプオフを実施する場合がある。その場合のバーの上げ下げは、走高跳では2cm、棒高跳では5cm単位とする。

※棒高跳の支柱移動については、現地の担当審判員にその旨を申し出ること。

6. 用器具について

用器具は、すべて主催者が用意したものを使用すること。ただし、棒高跳用のポールに限り、個人所有のものを使用することができる。個人所有のポールは現地で審判員から検査を受け、合格したものに限り使用することができる。競技中でも検査をすることがある。

7. 表彰について

- (1) 各種目とも8位（リレー3位）まで表彰する。
- (2) 競技は学校対抗（男子総合・女子総合・男女総合）、それぞれ3位まで表彰する。

【種目別に1位8点… 8位1点の逆算法とする。】

同点の場合は、1位入賞種目数（同数の場合は2位入賞種目、以下同じ）の多い方を上位とする。

- (3) 表彰は決勝直後実施する。他種目への出場のため出られない場合は必ず代理を出す。

8. 諸届出について

抗議申立書は陸上競技規則第146条によって総務に提出すること。抗議申立用紙は招集所に用意する。

9. 災害時（悪天候）に関する運営について

悪天候のため競技ができないと判断した場合は、大会事務局および専門委員長が協議をし、延期や競技時間の変更を決定する。この場合は監督会議を開き、各校への周知をする。

10. その他

- (1) 発病、負傷に対しては応急処置のみ行う。医務室は本部席裏に置く。
- (2) 室内雨天練習場での練習は禁止とする。荒天の場合は、主催者側から使用について連絡をする。
- (3) 貴重品の管理については各自（各学校）で行うこと。紛失の責任は負わない。
- (4) ユニフォームの上衣の端は、ランニングパンツの内側に入れること。
- (5) トラック競技出場者のナンバーは必ずユニフォームの胸・背部に確実に取り付けること。跳躍種目に出場する競技者は、胸部もしくは背部のどちらかでよい。ただし、走幅跳に出場する場合は必ず前面に取り付けること。ナンバーカードは、切ったり、曲げたりなど、いかなる方法でも隠してはならない。
- (6) 本大会において、全国標準記録を突破した競技者は8月21日～24日大阪市（大阪府）で行われる『第46回全日本中学校陸上競技選手権大会』の県代表として参加させる。
- (7) 『第53回中国中学校陸上競技大会』（8月8～9日・山口市）の島根県代表競技者は、原則として本大会の結果をもとに選考するが、県中体連専門委員会が必要と認められるときは、通信陸上大会及び県中学校四種大会の結果をもとに選考する場合がある。また、四種競技の中で優れた競技成績をあげた競技者については、単独の種目に参加させる場合もある。なお、通信陸上大会において、全国大会標準記録を突破して本大会に同種目に出場している選手は、本大会の結果に関係なく原則中国大会に出場させる。よって、本大会で3位に入賞した場合でも中国大会に出場できない場合もある。上記以外で選考が必要な場合は、中体連陸上専門部で協議する。
- (8) 全国大会標準記録を突破した競技者は、中体連陸上専門委員長（斐川西中 奥井克己）より全国大会出場のための必要書類を受け取り、期日までに提出すること。
- (9) 本大会は、国体予選（少年Bおよび少年共通種目）を兼ねる。（該当学年は第3学年）

【中国・全国大会に向けての合同合宿】

日 程：7月29日(月)～30日(火) 場 所：浜山公園陸上競技場

※選手に選考された場合には、できるだけ参加をお願いします。